

# 洪水危機管理シンポジウム

～ もし札幌に集中豪雨が襲ったら？我々は何が出来るか ～

## - 開催概要 -

タイトル：洪水危機管理シンポジウム

日時：平成16年7月24日（土）13時00分 開会～17時10分 閉会

会場：札幌コンベンションセンター（中ホール）

主催：札幌市（豊平川・新川）洪水危機管理協議会

< 協議会構成機関 >

北海道開発局 札幌管区气象台 陸上自衛隊 北海道 北海道警察本部  
札幌市 東日本電信電話（株） （株）エヌ・ティ・ティ・ドコモ北海道  
日本放送協会札幌放送局 北海道電力（株） 北海道ガス（株）  
（株）札幌都市開発公社 札幌駅地下街開発（株） （財）河川情報センター

参加者数：500名

## - 要 旨 -

### 基調講演

講演テーマ 近年の都市水害の課題と対策

京都大学防災研究所巨大災害研究センター長 教授 河田 恵昭

近年わが国で発生している水害の現状について、また、集中豪雨発生メカニズムや、急激な都市化による都市水害の被害様相などについてご講演いただいた。



・ 豊平川は政令指定都市を流れる河川の中で最急勾配河川であり、氾濫すると高速流が市街地を流れる。市の大部分が扇状地の札幌市は、集中豪雨のスケールの影響を受けやすい危険性の高い地域である。

・ 豊平川の現状の問題点として、河畔

林が疎通能力低下の原因になること、氾濫災害が起こってからのライフライン等の復旧・復興過程への検討を行っていく必要があると考える。

- ・ 効果的な住民避難を促すためには、避難の共助効果（避難をするという積極的な行動を周辺住民が取れば、それに連動する避難意向が多く生じる。）が必要で、そのためにも日頃から地域ぐるみで洪水氾濫防災に取り組むことが重要である。
- ・ 洪水災害対策技術の現状と課題について、1.総合治水対策、2.超過洪水対策、3.都市水害対策のそれぞれの視点から説明を行った。

## 災害事例報告

### 2000年東海豪雨災害の教訓とその後の取組

名古屋市消防局防災部長 小西 富夫

「2000年東海豪雨災害」の体験を通じて水害の実態やその後の取組み等についてご講演いただいた。



- ・ 2000年東海豪雨の際には、9月11～12日の2日間で名古屋市の年間総雨量の約3分の1に相当する567mmもの雨が降った。
- ・ 被災直後は、交通機関の麻痺による帰宅困難者が数多く発生し、数日後には被災ごみの処置やライフラインの復旧等が大きな問題となる。
- ・ 名古屋市では東海豪雨以降、避難勧告に先がけ避難勧告準備情報（「このままの状態が続くようであれば、避難勧告を出さざるを得なくなりますので市民の皆さん気をつけて下さい」といった内容）を整備し発令している。
- ・ 洪水ハザードマップの作成・配布のほか、定点観測システム（ボランティア登録の一般市民などから地域の浸水状況等の情報提供していただくシステム）や屋外拡声機を利活用した同報無線システムなどの整備も行った。

## 札幌市洪水ハザードマップについて

札幌市危機管理対策室マネジメント担当課長

濱岡 文典

平成 16 年 7 月に公表された「札幌市洪水ハザードマップ」について説明いただいた。



- ・ 札幌市で将来水害がおきた時に、どのように行動すればよいのか、住まいや勤務先の周辺はどの程度水没するのか、また、避難場所や避難経路などをお知らせするひとつの手段として札幌市洪水ハザードマップを作成した。

- ・ 札幌市洪水ハザードマップ作成にあたり、平成 15 年 3 月に学識経験者、住

民代表、地下施設管理者、河川管理者等で構成する「札幌市洪水ハザードマップ検討会議」を設置し検討を行い、更に住民説明会を数回開催しそこでの意見を反映した。

- ・ 札幌市洪水ハザードマップは「北区・東区版」、「中央区・豊平区版」、「白石区・厚別区版」の 3 種類からなり、7 月 23 日より先行して北区・東区に全戸配布を行っている。
- ・ 「わが家の避難メモ」というページを作成しているが、これをもとに各家庭で家族会議を行い避難場所の確認、緊急連絡先の確認などを行っていただきたい。
- ・ 7 月 26 日よりホームページで公開する「Web 版札幌市洪水ハザードマップ」についての説明を行った。

## パネルディスカッション

テーマ 都市水害とその教訓を知る

～ もし札幌に集中豪雨が襲ったら？我々は何が出来るか ～

コーディネーター	山崎 登	NHK 解説委員
アドバイザー	河田恵昭	京都大学防災研究所 教授
パネラー	品川 守	石狩川開発建設部長
	横田 崇	札幌管区気象台技術部長
	藤林義廣	札幌市危機管理対策室長
	鶴羽佳子	キャスター（市民の立場から）

市民とともに、学識経験者や防災関係機関等により、主に以下のテーマにそって討論が進行された。



- ・ 昭和 56 年の豊平川の洪水以降、札幌では大きな水害に見舞われていないが、近年各地で頻発している都市水害や、平成 15 年 8 月に日高地方を襲った台風 10 号による被害等を考えた時、札幌、そして北海道は水害の危険性はあるのか。
- ・ 豊平川の特徴と河川整備の状況、また、危機管理の取り組みや河川情報の提供等について。
- ・ 「札幌市（豊平川・新川）洪水危機管理協議会」による、各機関の連携や役割、また、今後洪水危機管理に向け、どのような対策が進められようとしているのかについて。
- ・ 上映された「豊平川洪水氾濫シミュレーション（短縮版）」ビデオでは、豊平川が破堤氾濫した場合に非常に高速な氾濫水が、地下街を始めとした地下空間にも押し寄せることとなっている。このような地下空間への浸水に対する危機意識の希薄さや浸水対策等の課題と、今後の取り組みについて。
- ・ 公表された「札幌市洪水ハザードマップ」を市民がどのように活用していくかについて。
- ・ 防災の考え方に「自助・共助・公助」があるが、いちばん大切なのは、「自分の身は自分で守る」覚悟。そして、近所の人やボランティアの人などの互いに助け合う力。それを支えるのが公的な行政の力で、災害が起こってからの「自助・共助・公助」の割合は 7 : 2 : 1 であること。
- ・ その他、防災訓練や情報伝達の課題等について討論された。